

第4学年「音楽」学習指導案

授業者 下田 愛佳里

2月21日（木）4階アセンブリ 10:00～10:40 話し合い10:55～11:45

1 題材名 いろんな音を聴こう

2 題材について

4年生になり、学習環境がアセンブリに変わり、楽器に囲まれ、自分のやりたい曲に専念できる時間も年間を通して授業内に取り込まれている。そこでは今まで自分の先輩達が演奏する音を聴くことしかできなかったが、初めて自分で楽器に触れ音を鳴らすことができる。ただその行動が楽しくてしょうがなく、ひたすらに楽器と向き合い、練習を重ねる時間が続く。一学期も後半になると、クラスの仲間の前で発表し、意見をもらう子達もでてきた。はじめのころは、息が合っていてよかった、一生懸命やっていたよかったなどの音本来ではなく、その子たちの気持ちや向き合う姿勢についての意見が多かった。そこで授業では音そのものの響きに注目するために、メタロフォンを扱い、響きの違いに着目するために目を閉じて感じる活動を取り入れた。そこから、少しずつではあるが、子ども達の中から、音の響きにこだわる姿が見られてきた。たとえば、プッシュベルは鳴らした後に手をすぐにあげたほうがより響くのではないか、マレットの枝の先が当たっている音が気になる、など、音そのものに意識がいくようになってきた。演奏して楽しいという気持ちを大切にしながらも、少しずつ自分の演奏に対しても、友だちの演奏に対しても敏感になってほしい。また、楽器を組み合わせたり、楽譜を少しアレンジしたりなど、試行錯誤しながら音楽に向き合ってほしい。

リコーダーでは、ファ#、シbなども3年生の時にはなかった音も増え、授業で扱う曲も充実してきている。ミュージックマップの時間と平行して、ひとりずつリコーダーを聴く時間も設けており、その時間を使って、ひとりひとりの定着の把握や、個別指導を行っている。リコーダーを吹くことが好きであり、吹けている感が漂っているがゆえに、なんとなく吹いている子どもも多く、時間をかけて息の使い方や、押さえ方なども丁寧に取り組んでいく必要がある。

3 学習指導計画（3学期：13時間目／全19時間）

常時活動	
自分（たち）の課題に向き合う・ともに歌う／演奏する／聴きあう 《4年生から継続的に行っている》	
3学期提示した楽曲	※既習曲も適宜扱う
〈ソプラノリコーダー〉 カントリーロード もののけ姫 〈歌唱曲〉 雲においつけ 音楽のおくりもの	

4 本時の学習について

（1）本時のねらい

一音一音を大切に扱う。音の重なりを楽しむ。

（2）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
○個人やグループで自分の課題と向き合って活動を進める 教えあう 話しあう 試してみる	ゆずりあって楽器を使う 場所を見つける
○全体で合唱やリコーダー演奏をする 音の重なりを聴く 友だちの声、音を聴く	見守る 息の使い方
○聴きあう 変化や工夫に気づく もっとこうしたら？ かつこいい	感じたことを主張できる場づくり 見あい、聴き合う

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

音楽の授業を通して育まれていくものとはなにか